

格付けの等級と市場への影響

大手格付け会社の S&P に対して、格付けの責任を認めえる判決がオーストラリアの裁判所で下された。ABN アムロが組成、販売した仕組み債に AAA の格付けが付与されたが、価格が暴落して投資家が大きな損害を被った。その責任を問われた。サブプライムローンの証券化が市場で表面化したときだ。

今後はオーストラリアだけではなく、ニュージーランドなど諸外国でも訴訟が続きそうで、格付けの影響と責任をあらためて認識させられた。

格付けは投資家にとっての投資基準だ。普通は投資適格級とされる BBB- 以上だが、投資家によって基準は異なる。私が以前所属していた銀行では A 以上だった。多くの国の債券に投資していたが、A から格下げになると、売らなければならなかった。

スイスの中央銀行 (SNB) は介入で急速に外貨準備が積み上がっているが、そのうちの 86% は AAA の債券を中心に運用している。国債が大半だ。AA は 10% に過ぎない。

ちなみに SNB の格付け基準は S&P、ムーディーズ、フィッチの大手三社の格付けの平均なので、米国債は AAA に含まれる。米国債は S&P が AAA から AA+ に昨年格下げしたが、他の大手格付け会社はトリプル A を維持しているからだ。

その点では大統領戦後の「財政の崖」への取り組み次第で、他の格付け会社もトリプル A から格下げすると、その影響は大きい。中央銀行には SNB のような投資基準を持っているところが少なくないからだ。ちなみに AA の 10% の大半は日本国債と推定される。

最近ではトルコ国債の格付けが投資適格級の BBB- に格上げされた。フィッチ一社だけだが、他の 2 社も近いうちに投資適格級に格上げすると見られている。

格下げ、格上げは、その節目の等級の変化により、債券の売買を誘発するので為替レートにも影響するので注意したい。